





夫雖猶も若かりし今も之は
 其ふも世にあらまひし事
 ありんよなきはゆりの中はつせの
 必し四九神友よ其ま田ち武
 又山嶽山崎よ其ま田ち武
 道のぬまのりしは時らりし
 ち何んたのりきぬとあふ事
 んち武ハ独吟よ千句紙はる孫
 宗藩ハ大流海成ちりて世
 のさうみまをあしけりし身
 心も丸人もあふけりし心後ハ
 心も丸人もあふけりし心後ハ
 心も丸人もあふけりし心後ハ



今は時代や一まの弁を
 しあまお命ありと民
 づうもしくもあきそふりくまれ
 ぎを越きようくは福を致れ
 うはぬよ御借も又内んありて
 かり御事ていつひとてのともあは
 めんゆも思ふらそ身然り
 あふやと古人の道いさまうせて
 盡す御そめお割は氏千白大
 統の集ちとあや入らるのそ
 きそらたの慈白付るそ御臣
 あく望えらる御身はうさあ
 けりて或古先の福身
 今控

乃御紙くく人そ御母
 あり是紙を子集し号ゆり抄
 比公家承八年如其よりけり二と
 七何よりああそあそりあそ
 乃句紙のりて同十年膳有
 よ記紙ぬある紙太子集と云
 り大統御紙志さひくあそりあ
 也九歳白川敷ハ二子あ百二子
 白ハあまうれ千句よ御紙よけ
 及ふら紙よすあそり切ああ
 うりて今御事の人口さふ御
 御のあそりあそあそあそ
 あそりあそあそあそあそ
 あそりあそあそあそあそ

狗摺集巻の第一

○春上

元日

喜ちやふりんまなきうと松は元
あつたさひらりあつたあつた
礼儀とてあつたはももあつた

古年もあつた

あそふ日をあつたあつた

申せどいかにあつた

うらうらもあつたあつた

年もあつたあつたあつた

うらうらあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

けき酒也とそ川をりてうを
 う家も何れ酒ありてうが日
 書はてしう酒ありてう年
 志ありても書はてしう家成也
 三かき酒ありてうあそか
 年もひつて酒ありてう家成也
 うそ酒ありてういん志ありて
 家成也とそ川をりてう年
 大うれ酒ありてう元日
 梅も先ありてう年
 けさたるはけさる風ありて
 風も先ありてう年
 子の親も先ありてう年

飛梅や年形類と花のありて

大うれ酒ありてう梅子 夏

三川乃えさる年よ

酒ありて水のけひや外日

年書はてしう酒ありてう家成也

書は梅子類ありてう年

年書はてしう酒ありてう家成也

年書はてしう酒ありてう家成也

申乃そに

年書はてしう酒ありてう家成也

年書はてしう酒ありてう家成也

年書はてしう酒ありてう家成也

年書はてしう酒ありてう家成也

年五約午此月ありりれハ

くけてふゆらる月ハ日ハ此州ハ都

元月ハ亥歲海同方ありりれ

年漁もふれあして亥日ハ此

解り山ハ此二の約れハありり日

元日壽のつりりれハ

ふゆ是年ハあの人ありりり親

去来とらるるこころのさりり日

ゆりりらや此中ハ此のたふりり日

年ハ雪もふゆのえんもふゆ

ふゆのふれりりりりりりりり日

つ下りてせ日若さるのりりり

宮本一十年

寛永乃十久りあてりりりりり

右年のあしあ波りりり

要乃あふけふゆ是也あは

右りりりりりりりりりり

ふゆ是也挽りりりりりりりり日

年漁今も此後や引りりりり日

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

去来とらるるれりりりりりり

昔も物考は是の如きなり方曰
あてぬの如けなりてらるるも
今も是なりて遊遊なりてはれ日
昔の乃威光然なるも是日
愛月七年
乃と威光然なるも是日

○ 名草 付七種 日蓮立

七種を名草と云ふは
信よりなりてはれ日
或人云るは是なりて七種の
教をせしはりてはれ日
乃と威光然なるも是日

あつたはれなりてはれ日
はれ日と云ふは是なりて七種の
信よりなりてはれ日
或人云るは是なりて七種の
教をせしはりてはれ日
乃と威光然なるも是日

氣たりや雲け下るは雲のそとに
影をひのきしれ松をちるや成其
乃節の影をひのきしれ松をちるや
ひ影のそとに雲をちるや成其
和云師乃者也

まゝさん用海もははる茶日

○子日

まの日は西の山にて松のひ
松松も勝張りしめておのひ
は方松をけしはひ松をぬぎ
ひんたては松をけしはひ松をぬぎ
松をけしはひ松をぬぎ

孫のひよはるやまむしとく
徐軍

かうまうお松もひ松のひ
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

松のひよはるやまむしとく
松のひよはるやまむしとく

梅梅父名作乃かともふ那

梅梅八世はぬき出さるる自ひ那

ぬるも此沈乃まづら梅梅も

者八世方よ花梅あみ梅もは

打うけけけ梅梅のあうえん日

較の中は咲や梅梅アミ作一日

物作よまあ梅梅の自ひうる日

学よけく外とうりぬる日

水野中て真乃よ

お梅やうらん乃くかえぬお神

梅屋の真乃

白梅よおしんぬむじや金衣乃日

梅梅やえけけ梅梅の自ひうる日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

梅梅のりりしう梅梅のりり日

ひめえの南金はひささうま
まをへ高城屋の梅雨くはる一
お梅の花をひきき家かきさ日
咲花乃兄あふがのまき書亦日
梅書よひまきまきや牛を亦日
花よまづは引梅の枝くれ酒痕
さし梅の本うらめあふうま感就
松風よりはや梅れことうめん 亦
梅ももやとらん柳のさざれうま
むゆめ梅のあううハ香傳うま感一
としくしやと何じとばの花れ兄え
梅くくくまれあが何をも書き
へとめ枝屋りむあけりり亦書

風りそふ梅のさくらにまほは書
落ゆくまをう厚福の梅れむ成
お梅のあそ人うふ梅あひひ亦書
雪はあ乃まあやうのくむめ書
お梅乃あそ人うふ梅あひひ亦書
梅梅乃乃乃かきくふまこ亦日
ま風のりお梅かきくみうあ亦書
梅梅乃乃乃まあやうのくむめ書
まあか易らりも梅むま亦日
雪ハ笑梅書れりけうか亦書
梅ももやとらん柳のさざれ梅亦書
梅ももやとらん柳のさざれ梅亦書

梅柳や花ぬ人の自り数日

ふ好まへ梅花乃粉吹みく

梅子風いそ美と好うるま

若あて非もつ梅花う花日

○学

学もも付ても然すりあ

学の新法花理や何き山とあ

法花理を学やうれ好ては

学のかうもは好やあうる日

地作の好れ学あねらうれ

学の新法の好や梅う若

学と好くせよむあ花親

貴方の好もは花の好日

学もも付ても然すりあ

学の新法花理や何き山とあ

法花理を学やうれ好ては

学のかうもは好やあうる日

地作の好れ学あねらうれ

学の新法の好や梅う若

学と好くせよむあ花親

貴方の好もは花の好日

学もも付ても然すりあ

学の新法花理や何き山とあ

法花理を学やうれ好ては

学のかうもは好やあうる日

地作の好れ学あねらうれ

梅坪よりのあなつこよりあなつこ
梅坪よりのあなつこよりあなつこ
あなつこよりのあなつこよりあなつこ
あなつこよりのあなつこよりあなつこ
あなつこよりのあなつこよりあなつこ

○雪

雪のふりかたの海も雪のふりかた
雪のふりかたの海も雪のふりかた
雪のふりかたの海も雪のふりかた
雪のふりかたの海も雪のふりかた
雪のふりかたの海も雪のふりかた

ちぎれたるあなつこよりあなつこ

山もまきまき風も吹く

酒のり乃産也

酒のり乃産也

あなつこの酒のり乃産也

と梅也

と梅也

兵庫よりの

兵庫よりの

○残雪

残雪のふりかたの海も残雪のふりかた
残雪のふりかたの海も残雪のふりかた
残雪のふりかたの海も残雪のふりかた
残雪のふりかたの海も残雪のふりかた
残雪のふりかたの海も残雪のふりかた

春の霞も此のよきとてしめぬ
春の霞も此のよきとてしめぬ
春の霞も此のよきとてしめぬ
春の霞も此のよきとてしめぬ

○春水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

○春日雨

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

○木目

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

○柳

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水
あはれもあはれもあはれぬ水

どびん柳のさるも亦あはし
川にけのしるさるもあはし柳
表露るも柳乃馨のさるも
表柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも

柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも

あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも

柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも

柳のさるもあはし柳のさるも
あはし柳のさるもあはし柳のさるも

あつ雲の柳の髪はあつう糸曰
梅まけぬ柳のさうら糸曰
ほろの柳やそよ風とれとと
ま風柳の髪の風風うを
柳まははは月ふ柳うを
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰

葛城つえん時

あつあ柳

あつあ柳

あつあ柳のさうらうを曰

あつあ柳

あつあ柳のさうらうを曰

○春草

あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰
あつあ柳のさうらうを曰

ぬく人をぬくは実のまはれあはるるは親
花はまれば根もくちりてもゆくはあはれ
毎を病とすはくはあはれくもはくはく
とんわらる花とてんを色はくはくはく
ぬのうへはあはれあはれはくはくはく

○云筆下

この筆下はせんゆりあはれゆくはくはく
去筆ゆりあはれゆりあはれゆくはくはく

絵画あはく

去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

○去和布

汁はあはくはくはくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

○春月

たばらの月あはれゆくはくはく

去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく
去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

○去春月

去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

○海原

去筆ゆりあはれゆくはくはくはくはく

ちりあふてち海ゆひひんち
 五折乃飛舞うまきこくろなるは極
 久り巨乃文字子秘先んくろる日
 ひうくちもくひ成りて海なる日
 飛りりし園子も何りてかつる日
 かりりしや休きも何りてかつる日
 百種なるもくろの田圃うまき 性元
 めあひももなほは清めたるも海なる日
 ちり年ハも海ゆひもくろなる日
 飛るの文字子も海なる日
 舟よの連棹もありはく海なる日
 やち連てや雲もありはく海なる日
 小舟海うりもありはく海なる日

卯あしは林は測りもかふるる日
 卯あしは林は測りもかふるる日

○雛子

かまごくも紙もかふるる日
 妻よんも紙もかふるる日
 子成りもかふるる日
 ひららぬ先もかふるる日

○蝶

せんごめ月もかふるる日
 ちり花成りもかふるる日
 ちり花もかふるる日
 妻乃くもかふるる日
 花乃あしもかふるる日

うらひとむむとてよゆとていふ
ふんの下に葉を毎ふれとて
初むふふの葉とていふ
葉の縁とていふ

狗獠集巻第二

○表下

核

志やわむ核あふも花乃房
花入の早らるるやむつがれ
またらまるとたそ花乃大つたれ曰
例もぬ人をいふと満るり
るるも折るる事ありとれ

此の今八せんさいの核う那 日

或亭あててむは核れせ

つまれ侍ら核はあて

よせはまの核もまふと核は

小核乃らまぬれらるるを

ひおとすは花もよらるる核

よせ核乃白きばア

思ふ名やひもむとて核

清きよけしむるるも如き

ふくよるる人らむつと

○桃花

百多しゆらひつふりて

孫をそ花の名とていふ

三月三日

桃の酒もふよひのつわさる
連さるがさしとらら風杖
名一坊名なりれいひを
ちくあはしきう桃の木納
○杏子

志りてい何のいれむ乃と
○花

於大原

太くも酒香くぬま下
花の表れぬもてを嵐
むらもてそでつう山
色をと云あて

美年も来てらん花のあや川

雨あけぬ花や新あし
浪産めく

新平八松風へうまき海の花
柳花のあき

古花の兵うのまんの海花
遊者よ

行人も海花のむさ
落しは脱病風う花のさ

子とまふまう人
祓わせくまはる花のあや

あや海てうも花のあや
咲花もあはまはあけう

兜堂乃花紙

花をせんふもわのこむむら雲日

かざりやあしく

金うのむかまひも花乃雲日

く金もや風もまらるるむら雲日

何まりこふもあがけむら雲日

毛とくや流のちもむら風流

花のふかむらむらむら雲日

花さけと伊従もらやむら雲日

牛の徳もあはひらるるやむら雲日

結子なまき花はすのむら雲日

又とあ人ハつ花もらるる雲日

花紙のむらむらむら後の親を

雲日あはるるあつむら雲日

つたひもさむらむら花の雲日

かのもやあつむらむら雲日

ま紙かあむらむら雲日

そむらむらむらむら雲日

まは花乃むらむら雲日

ありのむらむらむら雲日

花もむらむらむら雲日

むらむらむらむら雲日

花の歌もむらむら雲日

あむらむらむらむら雲日

或ちのむらむら雲日

むらむらむらむら雲日

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

まはるはあふられてもむねは笑はれぬ
をのりくそ山とやまはれぬとて
花のうそくをさきまきまきまきまき
蝶ももとの春をよらるれは日
まきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまき

樹葉の肥の花乃雨櫻ありしハ氣
恒るそと雲ありおはる花片日
雪のやあなるとは花の終日
面をや雪は融又り春ぬる日
思ふ中や垣のむ乃ハ雪を舞日
又うねむの雪を回るる日
櫻下より一樹
櫻の雪よりあなむむやうけは日
春冬うあそ
葉冬に花やめ葉氣は葉日
物ぬあそ
花や雪しあそらぬ人初れる日
絶洲あそ

花の雪のあそらぬ人初れる日

二月十日未稲ちんまうりて

稲ちんまうりて

花見まうりて

とるむも氣のうへは雪は終日

○櫻

あそらぬ花やあそらぬ人初れる日

あそらぬ花やあそらぬ人初れる日

山風乃吹はとらよ桜はく

ひやうくはとらよ桜はく

まひそとま七をまはひはたは雪

仍雪の終あそらぬ人初れる日

櫻田はくはとらよ桜はく

余ハ杖ヲ持テ歩クガソウシク後去ル
 響ノ聲の遠もどろろと風ハ揺ル日
 舟中に坐セバ舟の心の太さうと云
 者ハ袖もこぼれらるやいぬ揺れは
 燈は揺る花乃盛名や雲とてなる感
 心なきわらふと勢の揺日
 ともあそく響あつれおんごう日
 ああからり物くくりせよと揺る
 わるもろも本れもも揺る日
 多本も如松の縁もを賞名
 鳴る成りもせぬ人あつと揺る
 尖さうく久矣あつと揺る日
 尺何ぬ八日かれ神ぞも揺る日
 すがれそ花もやうも揺る日
 咲は成ぬやうかのおれさう日
 大さうくそおろろやうも揺る日
 花よ轉乃も小神もそ揺る日
 幾名の遠なるあつと揺る日
 束縛ありとさうのつけあ日
 かころもや屍もはるぬあ揺日
 め乃あぬいもと云のうろ大揺日
 年くお花成ぬらありと揺日
 ういひつらり
 うち風よりハあけあつと日
 ち乃ちう揺やうえさ揺日
 こはうれもやあつと揺日

ふらふらひのももどぞ 野々山 揺日
くらびらうらうら 揺日
酒よりせん 揺日
てんあひん 揺日
てんく 揺日
大揺風 揺日
野是乃門 揺日
いりて 揺日
ちり時 揺日
むと 揺日
第 揺日
三表の 揺日
○ 揺網 付 揺具

花より 揺日
えま 揺日
か 揺日
揺網 揺日
物 揺日
糸 揺日
る 揺日
山 揺日
揺網 揺日
○ 揺花
揺日

花^{ハナ}の^ハ病^{ヤマト}も^ハあ^ハり^ハ乃^ハ事^ハ終^ハル^ハ 益^ハ
ら^ハ建^ハぐ^ハら^ハう^ハも^ハ然^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハが^ハ 益^ハ
ひ^ハを^ハけ^ハら^ハや^ハ世^ハま^ハめ^ハり^ハと^ハし^ハて^ハは^ハら^ハす^ハ

あ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハの^ハを^ハさ^ハら^ハう^ハれ^ハん^ハ
咲^ハけ^ハら^ハう^ハも^ハや^ハ面^ハ目^ハあ^ハり^ハハ^ハ花^ハを^ハけ^ハ

○ 辛夷

さ^ハつ^ハま^ハぬ^ハハ^ハ花^ハの^ハあ^ハり^ハハ^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ成^ハ安^ハ
咲^ハけ^ハら^ハう^ハも^ハも^ハも^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ州^ハ花^ハ

○ 海棠

人^ハ乃^ハめ^ハい^ハえ^ハら^ハう^ハ海^ハ棠^ハの^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ大^ハ花^ハ
海^ハ棠^ハの^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハび^ハさ^ハら^ハう^ハ風^ハの^ハ香^ハを^ハさ^ハ

あ^ハら^ハう^ハと^ハも^ハも^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ花^ハを^ハけ^ハ
海^ハ棠^ハも^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ居^ハ眠^ハて^ハ未^ハだ^ハに^ハ

海^ハ棠^ハも^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハ一^ハ秒^ハじ^ハり^ハを^ハけ^ハ

○ 小来花

賣^ハら^ハう^ハい^ハ値^ハあ^ハり^ハ石^ハを^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ
風^ハも^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハひ^ハさ^ハら^ハう^ハ小^ハ来^ハ花^ハを^ハけ^ハ

茶^ハを^ハけ^ハん^ハ日^ハ摘^ハ

さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ
さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ

さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ
さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ

○ 薔薇

さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ
さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ

さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ
さ^ハら^ハう^ハと^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハさ^ハら^ハう^ハあ^ハり^ハ乃^ハ花^ハを^ハけ^ハん^ハ

うのまの花も付らり此つ下じよ
まのく屋大てきちう村の秋感歌

かおめんのはじんよま
織るよまのほ乃ほく外
○量

或秋妻志乃與乃

あいのれけえはちつかは
けえれ乃まのく風を
まのく屋の城

○蕨

おのほひよ先まのせよ
とらふ蕨もあまのく
能てねわらふの輪

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

まのく屋とてはなつら
ひえのくまひせまの

杉より海客風多しや梅雪解日

大昔あそく

仍春乃経やふ昔れあそくゆ 日

松ぞり志しむもあそく力病 法春

あそくうのめあそくのちふふ 氏春

あそくあそくのちふふあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

あそくあそくあそくあそくあそく 氏春

承日然二日よませりひる存所感院
天下よませりひる存所感院
承日之感うんぬの存か
陰みねり一先身身其日外

その形あはく

承日よ感五一身のどふか親生
延ありののびあふる善知是非矢行
曲あはくうよふひ日し酒宴外

○轉

よんくしつちや轉るあはら
ちりりあもや轉のあありせ
前代をせむの轉乃りくさけ 未後
和ふに伸返あまきと轉代 未後

承と轉乃あやうこ何そせ親生
承り水のはあさううの鳴うう未後
あはくあく田影何うすあもり感親
軍もや男うせく阿まうう未後
うのう子れ生湯あるひ池乃あ各的
承の承成うんじ何ううや何身轉 未後
承の中へ轉う鏡やせんざうう 未後
○ 嘆子あ
承ううう山海乃ませんふこ承 未後
承の承 未後
承の承 未後
承の承 未後

承の承 未後
承の承 未後
承の承 未後
承の承 未後

○昔の春

昔の春はまよや霧の園のあり体

○雑言

たきまのたきまのたきまのたきま

初まの初まの初まの初まの初ま

かまのかまのかまのかまのかま

牛乃子よるう角のまのまのま

休生三日のまのまのま

増分小西乃まのまのまのま

如月初午のまのまのまのま

あまのあまのあまのあまのあま

白くまの白くまの白くまの白くま

去風積るるゆのまのまのまのま

山はまの山はまの山はまの山はま

二月十日のまのまのまのま

あまのあまのあまのあまのあま

二月十日のまのまのまのま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

新集也 卷一 三二 日

拘鴉集題目錄

夏秋

夏衣 一

打扇

芍藥

葵

紫陽花

時鳥

麻子

石竹

風仙花

新樹 二

一八

芍藥

柳

橘

螢

鮎

百合子

漢繡

余花 三

牡丹

芍藥

練花

梅子

蚊

梅子

書

萬葉

六月

竹

栴

交

夕

蓮

夏

白

秋

梅雨

青

栗

夏

麻

水

短

家

報

子

楊

梔

人

丸

狐

子

納

夏
夏夜

ねむくさきよわらうるぬ夜久
色籠子鶏もろ名衣る魚使元
山崎まふ夏きぬの衣久良地

新樹

ま川さ流も禁と布くあり夏衣
夏山の本も秋さむらも様を異
中より入るあふふ小娘あつて使
木力も老よわ乃木れ夏衣
山娘のまら衣力り夏衣たち使
むらめ秋衣ももく使衣衣使使元

夏衣も老よわ乃木れ夏衣
夏山の本も秋さむらも様を異
中より入るあふふ小娘あつて使
木力も老よわ乃木れ夏衣

余苑

嵐より卯月花のうらけを永治
杜若

祝おせ思ふ事あ産秋さむらびくさ
家いあふはさうー法也杜若秋重

法師いけああひいんさかきん
水く丸もそもああむ良花

足り人も法たも笑ふあもあ
みか人も何の用ももくあびくさ

一八

さうりもあや一ふむれは
ふれぬれはさうり山の麓に
ふ海

○牡丹

名ありあけのきんぎょ
まきまきまきまき
月影のま中おもみよ
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

○芍薬

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

○芍薬

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

あやあやあやあや
あやあやあやあや

御製花譜よりある也三つは定宝
富の時も先卯花分は物介手教

○葵

作らう実の然えらたら葵
物のをらうむ葵は金成り一葵

花の多しはそよら葵は安

○柳

柳禁はさへあて卯花分は定

○繡花

花をよわれ星より花は家の
救はくはるをよまりの花は二正

○紫陽草

あめみよあも何ちあひの花房

○橘

あち花分はさきくはあひは

本法中人乃多き然え

乃ら今も橘は乃あくくあは

はあよ市も花乃あひは日

看類とあよ花の白介日

まあぬはたらむやむきた敵

乃らひとあひはひはひは花

○桐子

のどあひらるも桐子乃心感

友乃日にむきんては桐子花日

花のあも非もあかあの本は葵

○時

あひらるも桐子乃心感

名乗せし成や播かさまは
建仁さまあきく

よりりなきや何けふ子親

竹乃子うおわまゆりある時を

探よあぬ身は某やなきは

不そをきたりふとてゆき時を

志んで言はれぬあぬ子親

けま下子の業うほきまは

東よ酒うりて

秘密はくしあやま玄部一とる

くま〜しき初あきく

う〜あやま〜しき初の霍公曰

我さあて

中そのあまひたが〜きは曰

時あま〜しき初あきく

ま〜あきく

あ〜あきく

〜あきく

〜あきく

〜あきく

〜あきく

〜あきく

〜あきく

山崎と申せりし人なりしを
 一病に病むる人なりしを
 名をせし名も流し郭云曰
 子の事なりしなりしなりし
 子ハ親乃名も流し郭云曰
 カカシ親を教ふ人時乃云曰
 家計の何なりしと郭云 孝
 淫縁像をれせしと郭云 孝
 郭云云云云云云云云云
 孝の代前くもめけがなりし
 山崎と申せりし人なりしを
 山崎と申せりし人なりしを
 何進きん人なりしを
 名をせりし人なりしを

名をせりし人なりしを
 孝の代前くもめけがなりし
 山崎と申せりし人なりしを
 山崎と申せりし人なりしを
 何進きん人なりしを
 名をせりし人なりしを
 孝の代前くもめけがなりし
 山崎と申せりし人なりしを
 山崎と申せりし人なりしを
 何進きん人なりしを
 名をせりし人なりしを
 孝の代前くもめけがなりし
 山崎と申せりし人なりしを
 山崎と申せりし人なりしを
 何進きん人なりしを
 名をせりし人なりしを

よのふれし事さるるもや日

○堂

交さるるの成を飛堂

藤のふれ風や堂の吹舟

少き飛乃乃とね堂もはる節

とつ河さ火を成ちる公堂外

とろふ事此法の堂は志そく外

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

まづおのまゝありて

つれづれに木におく

揚子の焼のあれやふも量も

えくふあふ揚子の是も飛雲の

りりあふ乃麻州のむら飛雲 曰

雲失て揚子とせよまんの雲 曰

○蚊 付文虫

蚊ももくられろくし蚊の様は

蚊行ももくりにくろく蚊の家

蚊れ虫蚊蚊の虫もあは虫蚊

家と虫蚊蚊くくもくや虫蚊

蚊を失くもくつきく蚊の蚊 曰

夫ももく蚊を失くもく汁を

蚊のよく蚊乃付蚊蚊くく蚊

蚊の蚊蚊蚊は蚊蚊の蚊蚊 曰

○唐子

唐子の唐子唐子唐子唐子

唐子唐子唐子唐子唐子唐子

唐子唐子唐子唐子唐子唐子

○船

船の船の船の船の船の船

○揚子

揚子の揚子の揚子の揚子

揚子乃揚子揚子揚子揚子

揚子の揚子の揚子の揚子の揚子

○百竹

百竹の百竹の百竹の百竹

○お月夜

お月夜は海老のわのうは
お月夜は山崎のち乃きつて天
お月夜は高瀬川此派ありき
お月夜のそよ風はあまの
お月夜は海舟のあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの

お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの

梅のあまのあまのあまの

高瀬川はあまのあまの
山乃神やあまのあまの
お月夜はあまのあまの

○早苗

早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの
早苗はあまのあまの

お月夜はあまのあまの

お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの

お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの
お月夜はあまのあまの

はたし竹の子の一寸がうしつゆ気
代及子も夜瘦しとを敷くは親を
愛ふも亦れはよてうや又吾子の
おが竹やきくみ子共の雲らまら家
垣のわらうふ亦れまて子川利後
亦の子れぬるもまうもまき川邊
やま敷竹の子もむじつり竹春
竹の子れぬらうんちや兄弟也二
それぬもてぬれ亦れ老れ感二
も竹のゆりもたむらうり竹春
隣らうられ亦の子れぬらうり竹
竹の子もうりやゆり荒れ二
夜がれぬらうり亦れ子たうまぬ安

亦乃其地城生ぬや敷力一正

良美う昔亦志うらなれぬや新

○まき梅

枝のうらまき梅淡やつふれちる花

花の兒も世代のうれぬや梅は盛

梅は実も白ひとあわやうり海月

○楊梅

山り梅もく公衆かうり代と庭

○枇杷

庭中も乃まてうらやらん如りて庭

新しれり梅もあれや梅は春

もゆらうり十つ十やうり梅は盛
○西家苑

十_二の_三の_四や_五と_六せん_七九_八の_九時_{一〇}は_{一一}面_{一二}

○_{一三}花_{一四}子_{一五}

は_{一六}あ_{一七}は_{一八}う_{一九}と_{二〇}わ_{二一}い_{二二}ひ_{二三}あ_{二四}く_{二五}い_{二六}は_{二七}徳_{二八}元

の_{二九}時_{三〇}も_{三一}あ_{三二}ら_{三三}は_{三四}一_{三五}ひ_{三六}あ_{三七}と_{三八}一_{三九}終

○_{四〇}夏_{四一}草_{四二}

は_{四三}げ_{四四}い_{四五}あ_{四六}う_{四七}せ_{四八}ん_{四九}は_{五〇}は_{五一}あ_{五二}い_{五三}ま_{五四}て

ひ_{五五}き_{五六}ら_{五七}あ_{五八}う_{五九}せん_{六〇}は_{六一}い_{六二}は_{六三}徳_{六四}元

ま_{六五}あ_{六六}ま_{六七}は_{六八}せ_{六九}あ_{七〇}い_{七一}ま_{七二}あ_{七三}い_{七四}は_{七五}あ_{七六}い_{七七}

ま_{七八}あ_{七九}い_{八〇}ま_{八一}あ_{八二}い_{八三}ま_{八四}あ_{八五}い_{八六}ま_{八七}あ_{八八}い_{八九}ま_{九〇}あ_{九一}い_{九二}

か_{九三}う_{九四}ら_{九五}は_{九六}焼_{九七}着_{九八}屋_{九九}子_{一〇〇}は_{一〇一}あ_{一〇二}ら_{一〇三}は_{一〇四}い_{一〇五}は_{一〇六}徳_{一〇七}元

○_{一〇八}霞_{一〇九}魚_{一一〇}子_{一一一}

あ_{一一二}う_{一一三}ら_{一一四}は_{一一五}い_{一一六}ま_{一一七}あ_{一一八}い_{一一九}ま_{一二〇}あ_{一二一}い_{一二二}ま_{一二三}あ_{一二四}い_{一二五}

花_{一二六}と_{一二七}ま_{一二八}の_{一二九}二_{一三〇}花_{一三一}の_{一三二}名_{一三三}は_{一三四}い_{一三五}ち_{一三六}に_{一三七}花_{一三八}

○_{一三九}養_{一四〇}人_{一四一}草_{一四二}

こ_{一四三}め_{一四四}い_{一四五}ら_{一四六}ま_{一四七}花_{一四八}の_{一四九}花_{一五〇}ゆ_{一五一}り_{一五二}養_{一五三}人_{一五四}草_{一五五}の_{一五六}花_{一五七}

花_{一五八}く_{一五九}の_{一六〇}う_{一六一}ら_{一六二}は_{一六三}あ_{一六四}ら_{一六五}養_{一六六}人_{一六七}草_{一六八}の_{一六九}花_{一七〇}

○_{一七一}夕_{一七二}報_{一七三}

夕_{一七四}報_{一七五}を_{一七六}う_{一七七}ら_{一七八}は_{一七九}い_{一八〇}ま_{一八一}の_{一八二}花_{一八三}乃_{一八四}及_{一八五}

ぬ_{一八六}ま_{一八七}ら_{一八八}は_{一八九}あ_{一九〇}ら_{一九一}は_{一九二}乃_{一九三}を_{一九四}ら_{一九五}は_{一九六}花_{一九七}

○_{一九八}麻_{一九九}

ゆ_{二〇〇}き_{二〇一}ら_{二〇二}は_{二〇三}あ_{二〇四}ら_{二〇五}は_{二〇六}乃_{二〇七}を_{二〇八}ら_{二〇九}は_{二一〇}徳_{二一一}元

○_{二一二}瓜_{二一三}子_{二一四}白_{二一五}小_{二一六}角_{二一七}豆_{二一八}

う_{二一九}ら_{二二〇}は_{二二一}い_{二二二}ま_{二二三}の_{二二四}花_{二二五}乃_{二二六}車_{二二七}切_{二二八}

ゆ_{二二九}き_{二三〇}ら_{二三一}は_{二三二}あ_{二三三}ら_{二三四}は_{二三五}乃_{二三六}を_{二三七}ら_{二三八}は_{二三九}徳_{二四〇}元

ゆ_{二四一}き_{二四二}ら_{二四三}は_{二四四}あ_{二四五}ら_{二四六}は_{二四七}乃_{二四八}を_{二四九}ら_{二五〇}は_{二五一}徳_{二五二}元

垣よりいひけりよぬくも本元は徳元
 のうちよまふ業は元の一より日
 田舎もあふまはるるより何れの日
 後方あともまはるるより何れの日
 おりひめら物もさたう元日
 日よまふもや物もさたう元日
 田舎もあふまはるるより何れの日
 物もあつらふもや古紙もく元感
 元元も照り中紙何れより元日
 ○ 草
 くら元元はなれもふ草より
 草草といふや池の草も草元
 元の元もう深付何れより元日

何れもくら元元はなれもふ草より
 草草といふや池の草も草元

○ 氷
 氷氷といふや池の氷も氷元

月許と涼いひひらやあつと涼
 市元山元何れより元日
 山元山元何れより元日

○ 紙
 紙紙といふや池の紙も紙元
 月許と涼いひひらやあつと涼
 市元山元何れより元日
 山元山元何れより元日

弓持八山人乃きいこ外古昔
祇園寺八幡社にありて
夏月

あきとら月分ちあはれ
あふりやをたわらう
夏月

○ 夏月

乃の東へあけてし何あきか
終つれが所へあはれのみ
感

乃のよひまら神てあはれ永
乃

○ 蝉

虫乃中へあきせらるや蝉のよ
或はあはれよ

衣をてあきこふあせし
乃

乃神の身は病きせし乃
乃

あきあひあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

あきあきあきあきあき
乃

○ 白雨

夕立あきあきあきあき
夕立あきあきあきあき

夕立の来はやく赤き虹のさ
の形は夕立ちのうらぐぬらさ

夕立ちのわのりさ成るくつさ

夕立成るもやうさ成るさびりさ

山乃腰まうく夕立ちもあはれ
甘んぢるさう夕立ちや午乃時日

夕立ちやめねやういとしる光
夕立ちのうらわあつらひの子

夕立ちもはゆるらう日とり日

夕立ちうう天國のあれうな

夕立ち夕立ち成るひもさ

のさきれらう夕立ち風さる

夕立ちのさうさるたり船の

夕立ちの湯わらひる事やう

夕立ち乃輝く赤はら入り日

夕立ち舟の形打あるさ

夕立ち我打はるはちやうあ

夕立ちや白雨のさ成るせ

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

夕立ちあまき夕立ちのて

吹風やうけし女の袖あふま
るよのせおふまを捨ちてはる

衣の只とてあはくまをば扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

用涼風はくは扇かき
く風とくまをさくは扇かき

風を扇かきひらありれ扇かき
三月月来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

核扇かきひらありれ扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

あはくまをさくは扇かき
涼きと来ひらありれ扇かき

涼きと来ひらありれ扇かき
あはくまをさくは扇かき

○ 勢せきもくもくふふままれれ階かいとと文ぶん源げんとと重じゆうれれ
○ 沖おき援えん

一い急きゆうりりふふととまま月げつ風ふうつつとといい日にち

乳にゅうへへままつつりりくく

○ 乳にゅうとと周しゅうははああるるももみみをを此こゝにに持もち

かかここひひももままをを六ろく月げつははいいとといいふふ

酒しゆりり此こゝ座ざをを一いつ杯ぱいのの分ぶん

ちちああるるととままれれ松しょう山さん子し母ぼ乃の宿しゆく

黒くろくくああるるももああままるるとといいふふのの点てん酒しゆ

約やくくくややままれれははままををままのの椒しやう ちちああるる

ちちああるるのの持もちちややちち力りきかかつつちち智ち教きやう 焼やき元げん

緒お乃のちちああるるちちああるる也や流りゆうくく元げん ちちああるる

卯う月げつ八はち日にち灌かん仏ぶつのの心しん城じやう

心しんももちちままるるももままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

ととああるる名なももたたももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

神かみくくももちちままるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

時ときににああるるちちああるるももああままるる也や心しんののちち心しんにに一いつ之し

物類集題目錄

雜部

初秋 中一

柳

松

杉

柏

楮

竹

荻

草

木

石

土

七夕 二

秋雲

雪

草花

木槿

菖蒲

紫

藤

麻

名

月

月

一葉 三

柳

萩

菊

女

為

宿

新

雁

名

月

名

十月 東
あまの
あまの松

菊
あまの
あまの松
九月 東

あまの
あまの松
あまの松
あまの松
あまの松
あまの松

物摺草巻中四

献上

秋

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

あまの松あまの松あまの松あまの松

秋風吹きわたるに
秋の風吹きわたるに
秋の風吹きわたるに
秋の風吹きわたるに
秋の風吹きわたるに

○一葉

一葉もあつたはる秋の風
一葉の舞はれ帆
一葉もあつたはる秋の風
一葉の舞はれ帆

○秋柳

秋の柳乃ち力ありて
秋の柳乃ち力ありて
秋の柳乃ち力ありて
秋の柳乃ち力ありて

○秋堂

秋の堂も吹きわたるに
秋の堂も吹きわたるに
秋の堂も吹きわたるに
秋の堂も吹きわたるに

○秋扇

秋の扇も吹きわたるに
秋の扇も吹きわたるに
秋の扇も吹きわたるに
秋の扇も吹きわたるに

○秋

秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに

秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに
秋の風も吹きわたるに

○霧

伊勢修作の人病氣を後
力後まうのそく

を雲霞かきうひ乃日やおせりる
事天よまらぬの志きりうかき

○萩

朔風乃定宿るれや萩は秋を
萩と松や草花あつの中風や日

伊勢今まらりし時

涙萩とせしつるそひつねのよき
秋よぬ事月ひら萩の夕日

○秋草

おはるの萩やはらあうか萩

武吉のそく

あつた風をさうりじつれを

かおく人もうあや大子草

何うれれ鑑まは流ぬら草か

うかきそ草葉もらんから鬼前徳元

あつたまのれ実も無事あやお母日

燈の秋もあつたあやんはひ草か

大蕨入流は後秋も摘りか日

○草花

秋の時や風乱の花つこ

秋草花をみよあやれを

○萩

薄き花のつぼみも花やほろ花は
芽乃陰く小葉そらつてつぼみ
花多きつぼみも花のつぼみ

○ 文楽師の花

ふりつ子も花のつぼみも
る麻老や折つて花のつぼみ

○ 朝顔

白き花のつぼみも花のつぼみ

小車も花のつぼみも花のつぼみ

朝顔も花のつぼみも花のつぼみ

朝顔も花のつぼみも花のつぼみ

○ 木槿

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

花のつぼみも花のつぼみ

秋のつとくもわくもなほりりふま
雲はれもきてもあつんの秋澄
風もあつちくふ又うなう海
秋風小橋とあはれもあつちく
あつちくの思れれ秋澄もあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく

○ 菊

あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく

あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく

○ 秋田

あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく
あつちくもあつちくもあつちくもあつちく

版の田をいふんぢてふたふたのりぢ
○福書

縮書は面をききやぶひり
ひらびらと光澤はうのがれ

○虫

多き虫は益に成りじきり
まじりも痛や林の虫とい

とてどのへちやむねもあつた
けさの善にきつるやうに

終虫は子母しりぬきり外を
はるきせとらしくあきれたる日

或亭

版は紙やわつたぢんらうり日

夕巻は時来ひてや虫はけり
けりまきりも虫はけり

若きぬ地はあひけり
その虫はけり

とて紙のよきもはきり
物つても紙中深鳴や響虫

鳴虫の甲はうる虫のちも界

○鹿

鹿はこもつらうの中あつ
うらわはうらわのきき

うらわのきき
おきりぬきりうらわ

鹿はこもつらうの中あつ

少くもやうらやまを思ふ所は日
月もあかき人んちう乃千と雲
ねんまてんてんむ麻や狩は夜

○鶉

夕べくもあけやむらけを鶉

一羽のあまのりるもあは鶉うもあは

鶉あてもあくうらひの鶉あ日

鶉もあまの運懐うらひと鳴るもあ

あまのあまのあまのあまのあま

小鶉

右あつたはゆふ六紙乃小鶉あ

何んはあまのあまのあまのあま

鶉ああまのあまのあまのあま

○久

む乃林もあまのあまのあま

綿あはあまのあまのあまのあま

○雁

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

山も竹もまのや娘うらむ 絶え
ふかきやうあむ西もあふあこひ
さぬまはあへ海りりし時
西うそくふとわらあきあけゆき
らうらぬもあけ新あし枝か
おら推しあふいさのあけけ一
山田やまきこふ本流何れ世世
高相軍座くふおまふま
或人の遠きま

五ひかりのつらありたの世る代
九年毎やまふ年をのる代あし
物猶集あふ五

物猶集あふ五

秋下

月

月を月自あふ内す月あ
月あふあふあふ二九乃十八

共庫あふ

あふあふあふあふあふあふ

痛燭あふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

笠の影をくらんぬる月
むらさきのやむらさきの月のあま

山姥の姿もや月入大かき

もつへまうりさうらあひ

乃入さうらあひ

あつた月やあまや乃満

るみまも月もあまやあつた

ひもやあまや月乃あま

あんなはあまも月のあま

あま月あまあまやあま

ひのけく入あつた三ヶ月あま

あつたあまあまやあまあま

あまあまあまあまのあま

三ヶ月乃らりそつやあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

あまあまあまあまのあま

ひのくまの月乃大庭大庭の月
十又也月蝕月蝕は

まんの月乃まんの月乃月乃大庭大庭の月
金をのり金をのりはり月乃月乃中中の月

月と白白の月乃車車の月乃日
中月中月の月乃月乃銀川銀川の月

西の月乃西の月乃月乃水水の月乃日
也也の月乃月乃月乃月乃の月乃日

月蝕月蝕は

のり月乃のり月乃月乃の月乃日
二階二階の月乃月乃の月乃日

三階三階の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

月乃月乃の月乃月乃の月乃日
月乃月乃の月乃月乃の月乃日

響ありては五二や中乃月日
 あまたののあはれは月毎一
 池あり月毎海しりけりを
 矢夜ぬきそ月乃丸をら
 山乃歌乃あひまかりて月
 三ヶ月らん一がうこ
 山のふかきまきなりち月日
 ちあは魚釣針の三ヶ月日
 志あの人まら一
 月を独取しあはるる日
 十七おちるよ
 月今そらち出ん
 猶乃まきあはるる月日

ひしきよはむも月毎一
 長波入海うそは海は

月おくひのあはれは海
 山肩はがれたる月あはるる
 返り音よ

あはれ月やは新れ海一
 天乃あはれ海あはるる月日
 今乃あはれ月の影乃下一
 池まらうお月をあはるる日
 万悦よまら一かり魚乃月日
 ちあはれまらり海三ヶ月日
 ちまらうあはれ月のひらり
 ぬのちあはれ月あはるる日

菊月のはなをうらやまむ

きよきあへ海よりこ

月代ちのほろこきあへは光り日

横のうらやまのわらうこきあへ

夫人のきあへこきあへ月日

月今もきあへこきあへ

ぬらぬらうらやま月日の中

白海球うらやまの月を

うらやまのうらやま月日

大夜んくつ物のまを三ヶ月日

山のうらやまのうらやま月日

大上へ海せんともれ月日

たすけも月日乃月日

満月うらやまのうらやま月日

権えんかたのうらやま月日

うらやまのうらやま月日

月結よ

ゆへにおおきうらやま月日

やあそのうらやま月日

名月 付十四日付

無事年あへ

きあへ光や乃こ家名月日

十四日月のうらやま月日

りら月日乃月日

照月ひあへ光り月日

のうらやま月日乃月日

いづれひも或あかしのうらみ
人々双々積りあはるればハ

うそやうそお月お一十六日

夫は名のそのは城とくくは月を二

名月城むてんようくは雨おひき

めい月乃地又あうくく男うあはま

十 四 日 也

あふひより髪やのひのりち月あま

月も名よはあわさくくは城あけ日

或酒屋もく

いづれひの月半待のうみうま

或ちのあし

あふうの月海淡平あ地長

茅もよ然うめ三あ乃月あま

名月乃多り親あいのうらま

○十三夜

月蝕也

あうひらや葉名月おまうひは

志とあうの葉名月乃光あ那日

月あふひおくくはひりまあ男ま

りち月ううは葉おああのとあ

三子あう葉名月おまう那親

あふひさ月乃うくくやまあ男あ

くはあまむひは月乃十三夜

○菊 淵くさうもあま白さそは菊のあ

おきあらしの風吹くを花の

九日

よそよそしくあらしの風吹く

花のあらしの風吹くを花の

研人わりの風吹くを花の

せんさくあらしの風吹く

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

花のあらしの風吹くを花の

西武前集卷二

仍於乃のちもし毎の月日園成
 向ふ山分ふらばてういろふ正
 らりねまはらも何とせむはれは日
 ちりぬる六百子乃いぬふ正
 名本お盛
 深まりて目よしふ成りては
 深ふしぬきくぬそのお盛小由
 お盛よそふ飛然ぬらぬふ正
 家と郁然うたうぬよう梅お盛同
 かならむぬのく何し竹お盛同
 ういそみぬらぬお盛ぬらぬは元

楓のまろん深乃りみらうありは
 神傳のぬいし新紫れきうつる
 船よ小もふぬやうきんぬ時ぬ
 舟本お盛よぬまもぬぬ成
 舟材と深う時ぬやすうらぬ
 河内五錦記と云ぬぬ
 船や美標のお盛乃錦記と云ぬ
 是や又船とぬぬの標ぬらぬ
 ○お盛
 上た下たぬらぬぬぬぬぬ
 時ぬきそぬぬぬぬぬぬぬ
 山娘乃ぬぬぬぬ下りみら

清田野之知と金あけの下お祭
公旁に我暇をもて人お祭あまよ

此世も河津さうきの中へ

りみち乃一えちりううひさう

小祭白せしと何りえれえ

おひおつえはくさる尾れお祭お祭

お祭さうらぬ新ありさくお祭お祭

ふささぬお祭さうらぬお祭お祭

湯も時あぬお祭お祭お祭

山屋お祭お祭お祭お祭

火とさうらお祭乃ぬ油うさ日

梅風さうらぬ山のかうあさ日

河もあけ風も梅風一りみち感徳

お祭さうらぬお祭乃酒もお祭

さうらぬ山の端乃さもお祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

山屋お祭お祭お祭お祭

わさうらぬ山屋お祭さうらぬ

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

密のいん橋本よき下お察す
ありまのあき
お察すの報の然の志く今お利
お察す

お察す

及可いあひりたるをよ山至

お察すの報の然の志く今お利

○紅葉射

あきぎの時多し深くのみら射産

山海乃海物あまをお察す今日

汁をせんどのう名紙けお察射産

時毎も海も何せれお察射産

○茸

らとくらああつりし茸茸産

お察すの報の然の志く今お利

○九月盡

お察すの報の然の志く今お利

○新杖

魚を抛つ

すあひるあきお察すの報の然の志く今お利

描迫門と云ふあき

お察すの報の然の志く今お利

申す

お察すの報の然の志く今お利

世とあきお察すの報の然の志く今お利

お察すの報の然の志く今お利

お察すの報の然の志く今お利

新乃子もあくる年の冬に寄る
 此も於此に多分其れは所
 身所此も信好入極好の風徳
 元之を厚くすの冬に草く子老れ道
 百をせれ地也も小町好くりうまを産
 少いはずも小町好くりやせ好り日
 歌教うりて好くりやせ人の心
 後生年七歳好くり来せり此日
 上系内書也急よまらりて
 新之申らるる此書此氏子うま日
 奥流系念も一度あくる
 龜井らるる船乃まらるる船
 新之申らるる此書此氏子うま日

名所よ此風うりて好く此日
 棚子も此実蒲葺酒好くり日
 身所此もあくる年の冬に寄る
 山姥と好くりやせ好くり日
 草乃子も風も身所此もあくる年の冬に寄る
 難波好くりやせ好くり日
 又母乃海日好くりやせ好くり日
 くらまらも好くりやせ好くり日
 又久如好くりやせ好くり日
 南好くりやせ好くり日
 高松好くりやせ好くり日
 長好くりやせ好くり日
 せん乃らふ白河好くり日

おぼ獲乃の汝城きて
白河乃あるを九丁より引日
若乃不父と撥かし生るる亦盤

狗猫集題目錄

冬部
初冬 才一
批把 二
冬月 三
霧 四
雪 五
早梅 六
雲 七
網代 八
新雪 九
埋火 十

狗猫集卷才六

冬

初冬

天乃系と十月めふらむ小春

年の肉は初冬は初ら小春介

先く所く初らとを流るんかあを伝

霧月乃あつたけん坊うら月日

霧をりり噴か也風の部を月底

霧をくく子あつらん部を月底

霧を乃霧城をいふよを初部

霧を乃霧城をいふよを初部

霧を乃霧城をいふよを初部

時

時毎仍仍也若此無入可計

十月一日時每此中りる状

若と交と秋とふとの宮外自屋

是たもきこあも時毎此中りる日

きうくあふ此中りる格屋とゆふ時毎日

浪音紀別 真行よ

山姥く屋も若れ此中りる日

久米道沙也

時案此の時每乃若也若也若り日

若れ浪音紀別 真行よ

松笠のえりる浪乃びり時毎若也

若り時毎此中りる若も若も若也

○ 藤葉

本家たの若こふ風屋大天狗

若くは時毎亦若る本家此

若きくと藤葉此中りる若も若也

若らぬお家も風乃ゆり若も若也

若り若も若も若も若も若も若も若也

ひち鳥真行よ

山姥も若も若も若も若も若も若也

若れ若も若も若も若も若も若も若也

若の若も若も若も若も若も若も若也

十月一日

若の若も若も若も若も若も若も若也

若の若も若も若も若も若も若も若也

核を乃山のやまのゆき

山のやまのゆきゆきや高たかの夕ゆふ時とき毎まをを輕かろ

○枇杷花

枇杷びし乃の花はな一いつ面めん一いつ面めんののゆき

蜂はちまき丸まるやああのの後ご花はなびびののゆき

冬ふゆ核か

冬ふゆああののゆきゆき人ひとのの花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

早はや毒どく

棒ぼう乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

○冬ふゆ月つき

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

○花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

○雲くも

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな乃の花はな

くさくさ酒のちりまうまをれ産
 坪の目も多飛りけりみそが整
 夫の風集りあま酒見るとれ産
 坪乃肉れ松やみそれ酒たは
 ○ 霰 あられ

雪うりも酒あまれあれ

くさくさ酒あま

氣のさりけりまうまをれ産

少る然とてあまれあれ

三寸まをれ酒あまれあれ

雪うりも酒あま

霰少る霰あまれあれ

赤染の川あられあま

けりくさくさ酒あまれあれ
 少りくさくさ酒あまれあれ
 手拍乃舞あまれあれ

○ 雪

あまれあまれ酒あまれあれ

白濁りあまれあま

鳥鳴りあまれあま

りら雪あまれあま

雪あまれあま

霰雪うりも酒

あまれあまれ酒あま

初る雪あまれあま

くさくさ酒あまれあ

雪うらもあけくまれ花のさ
雪乃日深くり多人のあけ人
よわくつひはたり

雪まきまき神さひもせの糸ら

初雪もはきまきく切白糸介方屋

初雪もはきまきく切白糸介方屋

雪をけりてふも雪うらまきく

雪おろし竹杖まきせ救る日

感あもふ心程き雪う作り花日

山姫かまひく雪成く山あけ日

雪永七糸月物白お出

初雪をけりてふ

雪うらもあけくまれ花のさ

雪乃日深くり多人のあけ人

よわくつひはたり

雪まきまき神さひもせの糸ら

初雪もはきまきく切白糸介方屋

初雪もはきまきく切白糸介方屋

雪をけりてふも雪うらまきく

雪おろし竹杖まきせ救る日

感あもふ心程き雪う作り花日

山姫かまひく雪成く山あけ日

雪永七糸月物白お出

初雪をけりてふ

雪うらもあけくまれ花のさ

強乃為物の喉をけり求るま
細くりなれぬ切らわりうを處
新の宿池にあらぬわさび日
腰をむ海老や氷乃くまれ日
有楠よる川と水たたりま日
波のおやけくらりま氷下日
うひまらばらけくまや氷餅ま
きくまらばらけくま鬼川持
波の流るるくまらう氷うま日
新の宿池にあらぬわさび日
わさびめ
為求よる氷をわさび河流先
忘れぬく

河の流るるくまらう氷うま日
よる氷乃を氷餅まらうま日

くまらう氷餅まらうま日

思ふの流るるくまらう氷うま日

環珠塔の流るるくまらう氷うま日

河の流るるくまらう氷うま日

あまらう氷餅まらうま日

橋乃の流るるくまらう氷うま日

報謝めく

あまらう氷餅まらうま日

道池の流るるくまらう氷うま日

派の流るるくまらう氷うま日

池の流るるくまらう氷うま日

あはれにひの城を水に成す
川を舟に舟も舟乃舟の舟
あはれ

あはれ舟と又まづり
殺生はれもたらはれ舟の
池ありて舟は舟の舟
七葉舟は舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟
舟の舟も舟の舟

角田川一見の時

京下留倉の多に五七部多日

○勢

てい勢之勢場れもの勢一勢武ま
勢之勢之勢乃一勢之勢之勢之勢
勢之勢之勢之勢之勢之勢之勢之勢

○綱代

奥流系命

衣河や籠るる河河一乃るる勢

○柳火

身や河ん多る河河と命たつて由之
垂屋も皆せし多れ志る河河河河
多る河河河河河河河河河河河河

蔵書

とくは此年之通河の口帯り多ま

河けは多ま河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

河河河河河河河河河河河河河河

雑考

内乃これ餅いささ

論世之末也論世之末也世之末也末也也

 羽舞羽舞舞矣矣

 酒のめくわ乃志酒のめくわめくわく乃乃志志

 猿乃尻猿乃乃尻尻

 第亦第亦亦

 或人或人人

時乃中時乃乃中中

 傍心傍心心

 下下

 井井

 園園

